（第3種郵便物認可）

まんが甲子園V 豊明高制作へ

発達障害の悩み 漫画で癒やす

昨年の「全国高等学校漫画選手権大会（まんが甲子園）」で優勝した愛知県豊明市の県立豊明高イラストレーション部が、発達障害を分かりやすく解説する漫画の制作を始めた。発達障害の子どもを育てる県内の母親(四〇)から「同じ障害で悩む保護者の不安を減らしたい。漫画で分かりやすく解説できないか」と相談を受けたことがきっかけだ。漫画は障害児の家族らに配布される。

発達障害の長男を育てる母親㊧から、説明を受ける豊明高校イラストレーション部の部員たち＝愛知県豊明市の同校で

理解広げ ストップいじめ

自閉症児の母 経験踏まえ依頼

発達障害は、コミュニケーションがうまく取れない高機能自閉症や学習障害（LD）などの総称。重い症状が伴わず通常学級に通う児童が多いが、学習の遅れやいじめなどで本人、家族が悩みを抱え込んでしまうケースが指摘されている。

イラストレーション部は昨年八月に高知市であったまんが甲子園で、課題作品の一コマ漫画が高い評価を得て初優勝。これを知った、高機能自閉症の小学五年生の長男(一一)がいる母親が同部に漫画の制作を依頼した。

部員たちは十二月下旬、母親と会った。母親は、発達障害の児童が学校生活を送る上での注意点や悩みを、自分と長男の経験を踏まえて説明。漫画では、長男が教室でいじめに遭い教師を交えて対処した話や、通学途中での友人とのトラブルなど、具体的なエピソードをもとに短編数話を掲載する。計二十ページ前後になる見込みで、部員で手分けして描いている。

母親は「障害児の親はストレスをため込み、虐待に走るケースもある。自分も、長男の障害を受け入れることができず、非常に苦しんだ。具体的な事例を漫画で読むことで、親は心を落ち着かせることができ、虐待防止にもつながると思う」と必要性を語った。

まんが甲子園出場メンバーの一人、内藤由香里さん(一七)＝三年＝は「自分たちの漫画が、誰かの役に立つのはうれしい。漫画で発達障害の理解が広がり、いじめの抑止にもつながってくれれば」と願っている。

母親が印刷費などを負担し二月には完成する見込みで、障害者施設やスクールカウンセラーなどを通じ配られる。